

平成27年度事業計画

当協会にとって、平成27年度は公益財団法人へ移行して4年目となる。また、博物館施設の経営形態の見直しが進む中、停止条件付で5年間（平成27～31年度）、大阪市立科学館の指定管理者として指名されることとなった。

26年度の科学館は、プラネタリウム事業の充実、「はやぶさ2展」「結晶展」「江戸時代の天文学展」「はやぶさ帰還とイトカワの石」など企画展・サイエンスショー・講演会実施、スペシャルコンサート等もご評価いただき、来館者数は好調で、70万人を達成する見込みである。

「博物館施設の地方独立行政法人化」に関しては、2月に基本プラン（素案）が議会に示され、策定に向け検討されているところである。

このような状況の中、平成27年度は、平成23年6月に策定した「経営計画（平成23～27年度）」の最終年度にあたる。当協会では、日々の職員等の「基礎活動」の重要性を胸に強く刻み、資料の収集・保管、および調査研究を背景に、基盤事業としての展示場の公開・プラネタリウムの投影、教育・普及活動、アウトリーチ活動等を展開し、協会目的である科学並びに科学技術の普及振興を図ることで、「経営計画」に掲げた経営目標の達成を図ることとする。

このため、学芸活動の質をさらに高めることはもとより、お客さまサービスと運営効率を一層向上させるとともに、お客さまにとって魅力的な科学館でのプログラムやイベントを企画し、科学館外でもお客さまと接触する機会を増やすことにより、科学館来館者の増加と、将来のわが国の科学を担う次世代層の育成の一翼を担うことを目指す。

また、当協会が管理運営する大阪市立科学館が、将来約10年にわたり寄与すべき方向と役割について、有識者会議において平成25年度に「科学を楽しむ文化の振興」を使命とする提言を受けた。平成27年度はその3年目にあたり、この使命の実現に向けより一層、取り組みを強化する。

なお、当協会が平成27年度、重点的に取り組む項目は以下の通りである。

○ 企画展の実施

2015年の「国際光年」を記念し、企画展「光とあかり」を実施する。照明に関する歴史資料や光に関する学術的資料などに参加型装置を加味して展示するとともに、講演会を開催したり、ミニブックを制作する。

○ プラネタリウム事業の充実

国内外の投影方法を広く調査するとともにテレビ番組制作者などとの共同制作を通じて、学芸員の潜在力を高め、より一層、来館者に魅力のある事業の展開を目指す。

一般向け番組は、平成22年12月に開始したプラネタリウムの2番組化が好評であるため継続実施する。そのうち、テーマ解説のソフトについては、原則、学芸員による独自制作とするとともに、新作品を増作する。制作したソフトは、他館での採用を目指して販売活動を行う。

また、投影回数を1日7回から8回または9回に追加する投影日を、25～26年度は大幅に増やしたが、好評であるため27年度も継続実施する。さらに、新作2本を制作し投影するとともに、全天周映像作品を上映する等プラネタリウム事業の充実を図る。

○ ホームページの更新

より利用者に分かりやすく、かつ、職員にとっても使いやすい内容にするため、ホームページを新たに作成する。

※参考資料

① 平成27年度 来館者目標 700,000人

(内訳)

- ・展示場 355,000人
- ・プラネタリウム 345,000人

② 平成27年度 一般向けプラネタリウム及びサイエンスショーテーマ一覧

期 間	プラネタリウムA	プラネタリウムB	サイエンスショー
27.3.5～5.31	ボイジャー太陽系脱出	～27.4.5 オーロラ	飛ばしてみよう！
		27.4.7～27.5.31 さがせ！第2の地球	
27.6.5～8.30	スターズライフ	天の川をさぐる	赤青緑の光のサイエンス
27.9.1～11.29	ギリシア神話の星たち	ブラックホール	フシギな偏光板
27.12.4～28.2.28	ロゼッタ、彗星を探索せよ	オーロラ	あかりと光
28.3.3～3.31	銀河の世界	新作	まるくなる水のチカラ ー水の表面張力ー

※土・日曜日、祝日、8/10～8/14の11:10は「ファミリータイム」を投影、

12:00は「全天周映像 HAYABUSA2 -Return to The Universe-」を上映

1. 大阪市立科学館の管理運營業務受託事業(収入:221,908千円、支出:232,137千円)

大阪市立科学館の指定管理者として、その管理運営を行う。

<事業内容>

(1) 資料の収集・保管・調査研究

物理・化学・宇宙等とその応用分野に関し、資料の収集・保管ならびに調査研究を行う。

(2) 展示場の公開・管理

1) 展示場の公開を行う

(4階:宇宙とその発見、3階:身近に化学、2階:おやこで科学、1階:電気とエネルギー)

2) 展示場が正常に機能するように、その保守管理を行う

特に、参加型展示固有の故障対応については、引き続き迅速な展示品の修繕に努める。

3) 展示品の評価、ならびに資料収集等による展示品の改良を随時行う。

4) 学芸員など専門スタッフによるサイエンスショーを実施する。

5) ボランティアが展示案内やエキストラ実験ショーを実施する他、「サイエンスガイドの日」や「科学デモンストレーター祭」の日に一斉に参加する等、市民参画を促進する。

6) 企画展「光とあかり」を実施する。

(3) 教育・普及事業

1) 未来の科学を担う人材の育成に資する「青少年のための科学の祭典」、「こどものためのジオカーニバル」を日本物理教育学会など他団体と連携して実施する。

2) 学校教育への支援のため、教職員向けの各種研修を行う。

3) 大阪市博物館協会と連携しての各種活動を行う。

大学生などの科学館利用を促進するため「キャンパスメンバーズ制度」を継続する。

「てくてくミュージアムニュース」への記事提供や、共同研究、博物館連続講座やシンポジウムへ参画する。

(4) 情報発信及び広報・宣伝事業

1) 出版事業のほか、ホームページ、電子メールマガジンを活用する。

2) 科学館の案内看板を整備し、事業案内チラシの発行を行う。

3) 学校団体に向けた説明会を実施するなど、利用促進活動を積極的に行う。

(5) 建物及び付属設備の維持保全事業

科学館の建物及び付属設備の維持保全業務を通して、その円滑な運用に努める。

2. 自主事業(収入:146,900千円、支出:148,192千円)

<事業内容>

(1) プラネタリウム事業(収入:140,760千円、支出:110,345千円)

1) 一般投影は、観覧者層の興味や時宜に応じて実施する。

2) 幼児とその保護者を対象にした「ファミリータイム」を実施する。

3) 学習投影を引き続き実施する。昨年度同様、1、2月期は1日2回の投影を行う。

4) スペシャルナイトを引き続き実施して様々な興味関心の要請に応える、また実験的な投影を行う。

- 5) 番組で使用する映像ソフトは、原則、独自制作とする。
制作したソフトは、他館での採用を目指して販売活動を行う。
- 6) これら多彩なプログラムの広報については、地下鉄掲出ポスターやスマートフォン対応を含めたホームページなども活用しながら推進し、市民等の利用を促進する。

(2) 全天周映像普及事業(収入:300千円、 支出:0千円)

オリジナル制作の「オーロラ」等、当協会で作成した映像ソフトを配給する。

(3) 普及啓発事業(収入:5,840千円、 支出:33,483千円)

1)独自事業

- ①当協会発行の科学雑誌「月刊うちゅう」を編集、発行する。
- ②ボランティアによる展示場案内「サイエンスガイド」を引き続き実施する。
- ③夏休み科学教室や天体観望会などのイベント型教育普及事業を引き続き実施する。
- ④アウトリーチ事業として、モバイルプラネタリウム・出張サイエンスショー・ワークショップなどを引き続き実施する。
- ⑤大型科学イベントのプロデュースや、科学普及事業のコンサルティングなどを引き続き実施する。
- ⑥アウトリーチ事業のスタッフや、エキストラ実験ショーのボランティアスタッフを育成するための研修講座を実施する。
- ⑦来館者アンケートを実施する。
- ⑧学校との連携をさぐり、未来館校の中から来館可能性の高い学校に対し働きかけを行う。

2)連携事業

他館、機関、企業、団体等との連携活動を積極的に推進する。

また、周辺ホテル、大阪観光局、中之島ウエストプロモーション協議会、大阪PTA協議会、地域女性団体、近隣区役所、鉄道会社や旅行会社等に対し効果的な「プロモーション活動」を実施する。

科学館友の会や市民が参画する各種の科学学習のサークル活動を支援する。

日本IBM社によるジュニア科学クラブの科学教室、大阪管区気象台との気象イベント、芝浦工大とのロボット教室などのイベントを開催する。

「光の饗宴」「中之島ウエスト冬物語」など大阪市の関連事業や、国立国際美術館での「企画展」など連携してプラネタリウムの投影などを行う。

(4) 中之島科学研究所事業(収入:0千円、 支出:4,364千円)

物理・化学・宇宙等とその応用分野に関する調査研究を行う。

展示品開発に関連した教育的・展示学的な調査研究を行う。

理工系学芸員対象の展示研究会を開催し、わが国の展示活動の向上に貢献する。

その他の研究会等を積極的に開催し、研究所活動の維持・発展に努める。

3. 付随事業(収入:29,660千円、 支出:28,863千円)

<事業内容>

(1) 売店(収入:29,660千円、 支出:28,863千円)

科学館内売店を運営するほか、屋外テント内に自動販売機を設置する